

1) 開催概要

・4回にわたって行った、発表と意見交換の会の開催概要は以下のとおり。

	開催期間	開催場所	参加者数	ミニフォーラムの開催
第1回	2014年6/19～6/21 (3日間)	市民活動サポートセンター・ 多目的展示コーナー	延べ人数:46名	3回、延べ参加者合 計26名
第2回	2014年8/30～8/31 (2日間)	プラザノース・ノースギャラリ ー7	延べ人数:50名	1回、参加者6名
第3回	2014年9/27～9/30 (4日間)	市民活動サポートセンター・ 多目的展示コーナー	延べ人数:48名	3回、延べ参加者合 計29名
第4回	2014年10/30 (1日)	岩槻区役所・多目的室	14名	1回、参加者14名
	開催日数合計: 10日間		延べ参加者合計: 158名	計8回、延べ参加者 合計:75名

2) 展示パネルおよび配布資料

・以下の8種類、15枚（縦150cm×横90cm）のパネルを作成し、各会場で展示した。なお各パネルには、参加者が共感シールと意見ポストイットの貼り込みを行った。

- ①《仮称:市民が考える さいたま市まちづくりビジョン》提案の趣旨
- ②《仮称:市民が考える さいたま市まちづくりビジョン》の構成
- ③Ⅰ. 市民が目指すまちの将来像
- ④Ⅱ. まちづくりの5つのテーマ(2連)
- ⑤市民まちづくりビジョン アンケートパネルー1、ー2、ー3(3枚)
- ⑥市民版「さいたま市水とみどりの基本計画アクション」概要版(2枚)
- ⑦2030年さいたま市の市民生活シナリオ(作成の趣旨)
- ⑧2030年さいたま市の市民生活シナリオ エリアⅠ、エリアⅡ、エリアⅢ、エリアⅣ(4枚)

・以下の3種類の資料を各200部プリントし、各発表会で配布した。

- ①「市民が考える さいたま市まちづくりビジョン(素案)」 A4判16ページ(残30部)
- ②市民版「さいたま市水とみどりの基本計画アクションプラン」概要版 A3判両面刷(残40部)
- ③「2030年さいたま市の市民生活シナリオ」 A4判20ページ(残40部)

3) ミニフォーラムの概要

・発表会の中で、計9回にわたって、来場者と意見交換を行う「ミニフォーラム」を開催した。その各回での意見交換の概要は以下のとおり。

<6/19: 市民生活シナリオ 2030 を巡って>

(作成の趣旨)

- ・行政都市マスには生活イメージがない。それを描くのが目的だ。
- ・社会経済の変化に対応して、多様な家族像を想定している。その構成員の誰もが楽しく暮らせる2030年にしたい。

(参加者の感想)

- ・描かれている家族全体がとてもポジティブに生活していると感じる。
- ・エリアⅠのBさんのような店が、エリアⅡにもあればいい。地区によってはありうるだろう。
- ・コンビニのさまざまな進化が期待される。

宅配、御用聞き、お助け隊、直接的なコミュニケーションの媒体となる、など

- ・人と人の繋がりは分極化するのではないか。ここで描かれている生活は、地域での繋がりを強めていく方向だ。一方のネット社会の中で、地域での繋がりがほとんどなくなるような生活もありうるだろうが、ここではそれを望んではいない。

(成果)

- ・身近で分かりやすい話なので、多くの人が自分の生活に引き寄せつつ、関心を持ってもらえた。ここから、まちづくりの考え方(5つのテーゼ等)に進んでもらえたらいい。

<6/20：市民版・水とみどりの基本計画アクションプランを巡って>

(参加者からの取組みの紹介、居住地周りの環境についての感想等)

- ・上谷沼近くの崖下に湧水がある。季節によって水位が1.5ぐらい上下する。
- ・荒川堤外地の里山化に取り組んでいる。
- ・駒場あたりのここ30年ぐらいの変化は大きい。

(いくつかの提案)

- ・たまたま、藤右衛門川の上流、中流、下流に住んでいる市民がいた。川沿いのエリアを単位にしたまちづくり計画をつくりたい。

- ・流域住居表示ができれば面白い。同じ利害を共有していることが理解できる。
- ・雑木林、斜面林の単位は地域によって異なる。南区は小さい。「自然の森」等の制度の面積要件に配慮がほしい。

- ・単に綺麗なだけでない、ビオトープ型オープンガーデンができないか。
- ・草を抜かずに刈ることを続けることによって、自然な生態がよみがえる。

(基本的な方向としては)

- ・さいたま市は自然環境に恵まれている。
- ・大都市としては、結構まだ自然が残っている。再生より前に保全が可能だし、必要だ。
- ・主たるテーマは、さいたま市の生物多様性向上に、市民がどう関われるかだ。

<6/21：まちの将来像と5つのテーゼをめぐって>

(行政都市マスと我々のまちづくりビジョンの違い)

- ・5つのテーゼとは、まちづくりを進めるうえでの基本的な考え方だ。
- ・都市計画マスタープランは、都市整備の方針であって、まちづくりとは異なる。
- ・行政が考える都市計画マスタープランは、部局を超えたまちづくり計画にはなり難い。
- ・都市整備の部門、分野でバラバラにされていて、市民生活から遠い。
- ・市民の生活視点から、「まちづくり計画」を提案したい。
- ・さいたま市、市長の意識は、やや大規模イベントなど、外部からの活力導入に偏っているのではないか？

(重視すべき論点)

○テーゼ3

- ・5つのテーゼの中でも、このテーマは最も基本的な課題になる。
- ・エネルギー問題にまちづくりがどう向き合うかが、根本的、基本的テーマになる。

地域の自立・自給というアプローチ／化石エネルギーの枯渇／温暖化等、エネルギー消費のつけ／等

- ・さいたま市でアクションを起こしていくための目標の立て方、持ち方は
- ・危機的現状を認識するための情報の出し方
- ・深刻に考え込んだり、あきらめの思考停止におちいらず、希望を持って「別の道」へ歩みだすことが重要だが。

・身近なところからセーブしていくしかないのでは？

○さいたま市の自然・みどり

- ・残っている資源も整備や利活用の状況はもの足りない。
(さいたま市のまちづくりの現状、今後の展開について)
- ・行政の取り組み姿勢、自治会の姿勢はもの足りない。
- ・さいたま市民が、さいたま市に満足しているのか、さいたま市をどうしたいと考えているのか。
- ・さいたま市に不満を抱いている市民が、まちづくりにエネルギーを向けられるか。
- ・さいたまの現状を良く思っている市民と、不満に思っている市民のギャップ
- ・「さいたま市の現状」をどう評価して、これからのまちづくり、市民参加を進めていくべきか。→次の具体的絵姿・イメージ、あるいは価値の提案
- ・多くの市民が共感できる「良さ」の提案、提示
- ・「素の資源」のみがき方の提案、提示

<8/30：発表全体、主として市民生活シナリオをめぐって>

- ・人口動態は→人口減少時代の暮らし方を考える。
- ・経済的に上層の人のみではないか。もっと下層に人のことを考えるべき。
　　貧しい独居老人等、若者の暮らしも苦しくなる
- ・多様な価値観に堪えられるか。
- ・コミュニケーションの不足が重大。
- ・夢ものがたりに過ぎないのではないか。
- ・高校生に訴えたい。
- ・実行に移すにはどうしたらいいか。
- ・自治会の役割が重要。治安、防災等
- ・法改正も必要になる場合があるはず。
- ・さいたま市は医者が少ない。どう対応するか？
- ・税収増（住民税、固定資産税）のための高層マンションの建設が問題。
- ・行政には頼れない。市民が行政を動かす。共助→公助

<9/28：大学生を招いて>

(上海から留学している大学4年生)

- ・さいたま市には4年居住。
- ・さいたま市は、東京に比べて緑が多い。大都市なのに緑の多さは驚き。
- ・東京に比べて華やかさが少なく、仕事の魅力が弱い、住みやすさ、家賃の安さは実感できる。
(横浜に通学する大学1年生)
- ・全国から集まった友人に、さいたまの個性を伝えるようにしても思いつかない。→個性、県民性としてアピールできるものがあるとよい。

※アイデンティティ（県も市も）

・生まれ育ったさいたまで、住み続けたいと思っている。→緑があつて、都会のような田舎のような中途半端なところ、多様であるところがさいたまらしさなのか？ ポンヤリしているが、そこが良さでもある。細かいことだが、壊さず守っていきたい。

(若者として今後の暮らしを考えると・・・)

- ・就職先を求める場合、東京の魅力は大きい。
- ・建築の仕事を目指す眼からは、面白い建物、街並みに魅かれる。スクラップ&ビルドは好ましく感じない。
- ・若者の夢、経済の可能性は大きく持ちたい。

※内発的活性化といっても、市民が自覚して意識していないと成り立たない。

※大企業の方も活用していくべき。

◎さいたまには目玉がない？ 快晴率、日照時間、元気高齢者、災害が少ない、等
弱点は、国際性、国際企業

◎東京→横浜→千葉・さいたま、というヒエラルキーの見方、視点を逆転できないか。

(人口増が落ち着くこれからのまちづくりは)

- ・開発から保全(保護と活用)への転換
- ・昔からの家が壊されたり建て替えられたりしているが、コンビニや安ショップ的者が多く疑問。(いまだに続くさいたまの中での開発の質は?)
- ・大規模マンション、店舗の入れ替わり。
- ・駅直近の開発に集中して、住宅地の近隣商店が消えていっている。
- ・駅前のパチンコ屋

※大宮東口のまちづくりデザインコンペ(大学生の提案)のような、良い都市デザインを創っていくことが必要。

(歴史・物語)

- ・堅実で地味。大きなロマンにつながる物語がない?
- ・新しく作ってもよいのでは。
- ・文化で興す。徐々に合併前の市の一体感が形成されているか←若い世代により期待する。(高齢者が今後急速に増えていくまち)
- ・子どもがへっている。
- ・一度さいたまを離れてしまった子世代、若者世代が、さいたまに戻ってくるようなまちでありたい。
- ・空き家問題、空き家活用、邸宅地の保全活用←環境劣化をまねかない対策(宅地分割やマンション開発に対する法・制度の整備が必要)
 - 分権と市民参加で。条例の役割は高まってきている。
 - 国の税制は難問
 - 都市農地の保全活用も、現行の都市政策と農業政策が分離されたままでは難しい。
- ＜個別・自分からの発想＞←つなぐもの→＜全体＞(見沼田圃景観形成ビジョン研究会の活動から)
- ・保全・活用の施策、制度もつくり、ニューヨークのセントラルパークにも勝るような緑地になる可能性があるはず。
- ・夢を大きく、市民がビジョンを描くこと

<9/29: 行政職員を招いて>

(行政のまちづくり担当者として)

- ・自由な発想で書かれている。
- ・行政として全てを受け止められるかどうかわからないが、市民が主体となれば実現性のあるビジョンではないか。
- ・市民有志の活動で、自主的に市民にアピールしていることが意義深いと思う。

- ・市の政策は「議会」との関係で産まれる傾向がある→区から政策を産み出す発想が必要
- ・今後のまちづくり……行政の協働パートナーとして市民とともに民間事業者も指名している→実態として民間事業者の係わり方は課題
- ・ビジョンを示すこととは別に、ディベロッパーにやられてしまっている現実がある。
- ・震災復興のまちづくりでも、ハードだけでなくコミュニティからの復興が重視されている。
 - さいたま市でもコミュニティからのまちづくりが大切
 - まちづくりの検討場面も「コミュニティ」単位を考慮したい
- ・市民の視点・ビジョンの示し方に、現状をポジティブに捉えようとする意識を感じた。
- 課題に施策で取り組む行政と市民の力を合わせる
(まちづくりビジョンが打ち出している考え方について)
- ・さいたま市内部から創っていく思いを強く感じた。
 - ←市外部と連携したり相互支援する柔軟な関係性があってもよいと思う
- ・大きな目指すものは、市民側も行政側も大きくズレてはいないと思う。見方、アプローチの違いだろう。
- ・「内発性」はよいキーワードだが、外部から良いアイデアを得てさいたままで活かす姿勢があつてよい
 - ←周囲を参照し比較しながらも、さいたま市の独自性、強みを打ち出していけるとよい
- ・多様な生活ニーズに対応できるまちづくりに共感
 - ←一律のコンパクトシティではなく、どう担保、表現していくかが課題
(市民の自発的活動、生活相の見方)
- ・この会もそうだが、見沼春フェス、秋フェスの例でも、きっかけを与えると、市民の自発的動きを喚起できる。
 - やわらかい感性の(女性の)コーディネーターが良い
 - 行政区ができて、まちづくりの関心の核になれる
- ・身近な生活、コミュニティ、人づくりの視点、世代間交流といった視点からまちづくりへとつながっていく(女性)←大きいことから考えるより、自助→共助→公助
- ・2030年市民生活のシナリオは、現在と比較して大きな変化はないが、人のつながり重視、生活重視を表現
- ・住民コミュニティの現状は要確認では？ 特にマンション居住者は地域にどういう意識を向けているのか？
- ・生活価値観の多様性に応えながらも、人とのつながり、自分の暮らしとまちの関係を軽視しない意識は大切
- ・小さな暮らしの単位、コミュニティに出会う機会があること(お祭り、雪かき、地域の仕事、決め事、……)
 - (既存資源・まちの現況の取り扱い、保全・活用)
- ・農業政策の弱さもあつて、農地が守られにくい面があるが、優良農地に市民の関心、価値意識を向けることが大切
- ・見沼田圃は市の片隅だったが、緑区ができて、区制の中心課題になって注目度が上がった
- 区の機能、役割強化が期待される
- ・大がかりな都市構想政策とソフトな手立ての組合せ
- さいたま新都心などが一定の成果と開発インパクトを生んでいる一方で、きめ細かなソフト施策に工夫の余地
- ・個々の住宅、建物の集積で自動的に都市ができるということはない→個別建築行為(住宅、マンション)、空き家などの課題にいかに向き合うか

・最近、区（コミュニティ課等）発のプレスリリースが増え、区の単位で競い合っている印象がある。良い競争に発展すればよい。

<10/30：岩槻のまちづくりを中心にして>

（空き家問題）

- ・空き家、空き店舗が特に目立っている。
- ・古い建物が次々と姿を消している。

◎行政と市民が協力して考える必要がある。空き家条例の制定を働き掛けよう。

（区役所の役割）

- ・岩槻のまちづくりなのに、すべて本庁に伺いを立てている。もっと主体性をもって、まちづくりをできないものか。→横浜、川崎のような、企画能力のある区役所（大区役所制）に
- ・岩槻は旧市がそのまま区になったのだから、区民がリードして、主体性のある区役所の実現を先導していけるのではないか。
- ・新都市マスタープランは全体構想のみで、地域別構想はこれから

◎地域別構想の策定に、市民が主体的に取り組んでいこう。

（岩槻のアピール）

◎岩槻のまちの良さをアピールしていきたい。

- ・郷土愛を育てる方法を考える。

（まちづくりの拠点）

- ・区民が大勢集まることができる“場”がほしい。
- ・市民活動の拠点がほしい。（サポセン+事務所機能）
- ・同じ場にいることで、隣の団体のことも知ることができる。
- ・まちなかに賑わいを。

◎区役所跡地の有効な活用を考える。

（岩槻の農業）

- ・元からある自然のうち、元荒川と綾瀬川は、岩槻の大切な資源。
- ・岩槻は広く、多様な要素が混在した土地。
- ・岩槻は市内で一番農地が多いが、JAが他のさいたま市域と違うのがネック。
- ・ヨーロッパ野菜が注目を集める。

◎さいたま市の緑地・農地において、岩槻の果たす役割は大きい。

（人形文化の活用）

◎“人形”という産業と文化をもっと活かしていきたい。

4) 来場者によるパネルへの書き込み

・各会場において、来場者がパネルへの共感シールと意見ポストイットの貼り込みを行った。パネルごとの意見ポストイットの内容を以下に列記する。

*** 黒字はサポセン-1、青字はプラザノース発表会、赤字はサポセン-2、緑字は岩槻発表会**

<まちづくりビジョンの将来像、5つのテーゼ、アンケートパネル>

○将来像

- ・目指す住環境づくりのためには、目標に向かっての規制は必要である。
- ・ベッドタウンとして発展してもいいのでは。
- ・意見、訴えをお互い尊重しながら交換しあうことができる。
- ・古家のとりこわし、条例で清潔な環境
- ・全国レベルとは何なんだろうか？

○テーゼ1（保全継承のまちづくり）について

- ・これからの環境保護のためには、地域住民の維持管理への参加意識を高める工夫が必要では。
- ・現在の「区画整理」の仕方。整然とした住宅地は形成され難い。（ミニ開発に近い状況になることが心配）
- ・古くからの道筋は安全が確認できている。それらを生かすことが大切。
- ・古くからある店を大事にする。コンビニをバンバン建てない。
- ・住んでいる人々が心地よく感じるもの、ずっと住みたいとおもえるもの＝壊したら再生が困難な観光・資源
- ・ホテルやスズムシで楽しませてくれる活動家
- ・元荒川、綾瀬川の環境整備
- ・岩槻の街のアピール方法を強く

○テーゼ2（きめ細かなまちづくり）について

- ・居住地域の単位で将来に渡り安心・安全な「地区計画」化を計画し、構築する。
- ・流域住所を作ったらよい。
例）芝川右岸○○田んぼ
○○川左岸△△林××山
- ・まちづくりの単位は、型にはめるものでなく、いろいろあっていいと思います＝テーマごと。
- ・個が活かされるまとまりのあり方は？
個の意識の向上→隣り組→自治会組織→小学校区
- ・コミュニティーの基本は「向こう三軒両隣」
大きなまとまりは生き（活き）にくい！
- ・「安全・安心のまちづくり」に向けて

○テーゼ3（持続可能なまちづくり）について

- ・ゴミを出さない！
不要な物を買わない！
ゴミは分別にして出す！
- ・路地裏文化、路地のぬくもりを取り戻す。
- ・行政頼りの生活から脱却→行政がしすぎると市民力（人間力）が落ちる。（例：ゴミ収集が週1回であれば、それなりの生活を工夫してゴミの減量ができる）
- ・自転車は車両／事故・損害賠償／交通規則無視

○テーゼ4（地域活性化のまちづくり）について

- ・「7F」のように、楽しみながら新しい活動をしていることが、結果的に活性化につながると思います。その自由な活動をさまたげないようにすることが大事ではと思います。
- ・人と人とのつながりを大切にするためにも、地元（農家、商店）の活性化に協力する。
- ・食育を考えるべき。
- ・「べき」ではなく、地域の強みや人材（脳材）が活きる取組みを後押しする仕組みができると良い。
- ・子ども会活動の見直しを。子どもを喜ばせることではなく、子どもの生きる力を育てるあり方。
→地域の力となる。（例：定期的な地域の清掃活動、農家の手伝いなど）
- ・目立つ空き家、空き店舗の活用計画
- ・空き家は更地にすると税金が高くなるのはおかしい
- ・空き家が目につくようになり、防犯や冬に向かって火災が心配。行政によって空地にしてくれると見通しがよくなると思います
- ・市民活動団体が利用できるシェア・オフィス。空き部屋の利用。机、イス、ロッカー等。共同管理、低い利用料

- ・コワーキングスペースもある
- ・よそから来た人がわかりやすい市内の地図や道標をつくってもらいたい

○テーゼ4（地域活性化のまちづくり）について：安心安全の項

- ・周知徹底のための具体的方策を実施する。
- ・災害時、停止電力を想定した、井戸水供給の確保を対策しておく。
- ・災害時には水も必要。
- ・地域ごとの防災マップ作成、ネットでの共有。
- ・自治会の役員だけの訓練ではなく、一般住民の参加できる訓練の実施を！
- ・どうすれば、ひとりひとりの意識を高められるか？
- ・平常時の散歩、子供の遊び場、ジョギング等にも使える地域マップ
（e x. 水道、トイレ（バリアフリー）、雨宿りの場などが分かる）
- ・小さな自治会、50世帯～100世帯をまとめる
- ・犬も散歩で地域の変化をチェック。防犯にも役立つ
- ・地域防災の具体化。特に地下防災（ビルの地下、地下鉄）

○テーゼ5（市民主体のまちづくり）について

- ・市民と行政が協働するネットワークコミュニティ（SNS）の設置運営を。
- ・古い歴史がある建物が放置または壊されていきます。なんとか対策を。
- ・市民からの誘いに、行政はなぜ乗ってこないのでしょうか。
立場ばかり主張する。
- ・市民（NPO含む）と行政が一緒のテーブルで勉強したり、意見を述べる場。
- ・旧区役所跡地を利用した街づくりを進めてもらいたい。人形会館の他に、イベントが行われる施設を作った方が良いと思います
- ・城下町いわつきをイメージした街づくりを進めてもらいた

<市民版水とみどり基本計画アクションプランパネル>

A. 目指すこと **市民参加と公民協働**

- ・地域の人が主体となって企画・実施し、それに公が協働する。

1. さいたま全市ビオトープ化計画④担い手の育成の項

- ・行政側で、これらをきちんと理解してほしい。

2. 在来種育成拡充プロジェクトの項

- ・現在、代用水東縁（加田屋田んぼ辺り）の土手へ、外来種（花）の植え込みが目立つ。在来種保護のためにも何らかの規制が必要では。

3. 谷戸の保全復活プロジェクト

- ・『谷戸』を守ろう！
- ・宅造優先の固定資産税制度を緑保全優遇に変換

4 屋敷林・雑木林保全活用プロジェクト

- ・みどりのトラストへの寄贈を！

②活用活動の項

- ・落ち葉を集めての「やきいも大会」などで活性化のアピールを！

5. 農地保全拡充と農業拡大促進計画①市民参加型農業の促進の項

- ・市民が参加しやすい条項（？）づくりの工夫（特に近隣住民）。

5. 農地保全拡充と農業拡大促進計画②地産地消と六次産業化の項

- ・市民から新鮮・安心・おいしい等の信頼を得る作物づくりを基本とした消費者との連携づくり。

6. 寺社の杜と参道②参道の保全と活用の項

・参道沿いのカフェ・レストラン・食事処など、沿道にふさわしい景観作りのプラン援助を（資金援助までは無理？）。

7. 河川・水路の項

・身近な小河川や用排水路の清掃を地域住民ですることの意識化。
行政が行うことが当たり前の意識を変えていく。

8. さいたま市の水とみどりを楽しもう計画の項

- ・雑木林・農家廻りで得た食材を使つての、食事もできるツアーの実施を！
- ・見沼たんぼガイドクラブでご案内します！～地産地消費食付き～
- ・オープンガーデンは興味あり。
半日で巡れる程度の範囲で…。(参考：熊谷)
- ・地域に名調理人はたくさんいます。是非実現化を。

<2030年市民生活シナリオパネル>

Aさん家族について

・休日には郊外の緑を楽しんだりできそうですね。

Bさん家族について

- ・「夫婦で営む豆腐屋」として欲しいです。
- ・私の家は駅に近いけれど、自治会・老人会活動は、限られた人だけ。
- ・地域コミュニティを復活させて、老人のたまり場になればよいと思っています。

Cさん家族について

- ・これから増えてくるパターン（家族構成や居住形態）ですね。
- ・こういう裕福な年寄りばかりではないのではないかと。
- ・子供のための施設が一緒にあるといい。
- ・グループリビングで楽しく（但し、気心の知れた方々と）
- ・留学生に限らず、若い学生やフリーター、地方からの若者でも楽しいかも
- ・その時に知り合った人ではダメ。気の合う仲間となら興味がある

Dさんについて

- ・若者の生活はもっと苦しくなるのではないかと。ワンルームマンションなどには住めない。
- ・一人で暮らしたい人間もいる（多様な価値観の存在）。
- ・地域活動へのボランティアポイントで、何かメリットが得られるといい。

Eさん家族について

- ・「幼稚園」より「保育園」が妥当。
- ・未就学児から学童まで、安心していただける「居場所」。
- ・ワークライフバランスの配慮充実のまち。
ワークシェアリングで多様な働き方。
- ・少子化による廃校になった小学校または空き教室の市民サロン化

Fさん家族について

- ・車は所有しているが、駅・デパート・スーパー・医者等、大半が徒歩で済ませられる生活。
- ・孫の面倒をみるのはすごく大変だ。
- ・子どもの家族が、親のいる地区の駅前に戻ってくるパターンが考えられる。
- ・転出した子ども家族が戻ってくることを促進する優遇策があればいい。
- ・自治会の役割はますます重要になる。
- ・こんな風に前向きになるためのきっかけが必要
- ・「子どもとの交流」は、高齢者にとって行動するモチベーションになる

Gさん家族について

- ・MC-β (エムシーベータ)



Hさん家族について

- ・地域包括支援センター（シニアサポートセンター）と地域包括ケアシステムがキーワード。地域のフォーマル、インフォーマルサービスをつなぐコーディネーターが必要。
- ・双極性障害当事者の生き甲斐、発揮する場所
→能力・スキル・アイデアを地元に戻元していきたい
拠点、クリエイティブな居場所探しています（玉）

Iさん家族について

- ・コンビニの配達付を利用している

JさんとKさんについて

- ・直売所の野菜は新鮮でおいしい！
- ・個展ギャラリー・・・（解読困難）

Lさん家族について

- ・災害時の避難民受け入れに足る広さと必要資源や食糧をどう確保・管理しておいたら良いか。
- ・おしゃべりの「聞き役」をする人の必要性を感じます。
ぜひ傾聴ボランティアの養成を。
- ・可能なかぎり、おひさまの力を利用していく。
- ・里山の農業は〇かい。農業を教える人は、まちの新しい人材になる。
- ・太陽光発電。蓄電池を各戸がもっている
- ・高齢化により屋敷林は減少。落ち葉はごみ

5) その他

- ・9/29の発表会と行政職員を招いたミニフォーラムに、埼玉新聞社が取材に訪れ、10/1付で以下のような記事が掲載された。

五 新 聞

(第3種郵便物認可)



市民の立場から考えるさいたま市まちづくりビジョンを発表―9月29日、市民活動サポートセンター

市民の視点 将来像描く

浦和区

さいたま市の将来像を市民の立場で考える「市民が考えるさいたま市まちづくりビジョン素案」の発表と意見交換会が9月30日まで、浦和区の市民活動サポートセンターで行われた。

自営業や会社員、大学教授や公務員など、さまざまな市民が集う「まちづくり」の市民会議（中津原秀座長）が、市の改定都市計画マスタープラン策定（今年4月公表）と平行し、市民生活の視点から市の将来像とまちづくりの方向性について検討した。ビジョンは▽市民が目指すまちの将来像▽まちづくりを進める基本的な考え方を2000年の市民生活のシナリオなどで構成されている。

「ビジョンは将来像を描く前提として、現在のさいたま市が置かれている状況と現状を認識し、社会経済動向への向き合い方を提案。目指すべき市の将来像として「地域の自然や歴史・文化の豊かさと安心・安全を大切に、全国レベルの居住環境を有する都市となる」ことを強調。そのために「豊かさの基盤を常に居住機能を主とする住みやすさに置き、過度な開発や外部からの活力導入を図ってバランスを崩すようなことは避ける」「政令都市であっても、内発的都市づくりを機軸に市民の暮らしの充実を図る」としている。

先月29日に行われた意見交換では「区の機能強化が必要」「大掛かりな都市構想整備と決めた細やかなソフト施策に工夫の余地がある」などの声も。出席した市職員からは「すべて受け止められるかどうか分からないが、市民が主体となれば現実性あるビジョン」などの意見が寄せられた。

会議ではさらに意見を取り入れ、本年度中にビジョンを取りまとめるとしている。

（新井 護）

まちづくりビジョンで意見交換

「暮らし充実」たたき台に

6) まとめ

- ・まちプラン市民会議とまちづくり市民ネットワークさいたまで作成した、《**市民が考えるさいたま**しまちづくりビジョン・素案》(「2030年さいたま市市民生活シナリオ」を含む)については、2014年6月から10月にわたり、計4回、延べ10日間の発表と意見交換の会を行うことができた。参加者数は、まちプラン、まちネットのメンバーも含め、延べ158名であった。
- ・参加者数は十分とは言えないが、パネルへの貼り込みや計8回のミニフォーラムでは、当ビジョンに対する共感、批判、改善を含めて、多くの建設的な意見が寄せられた。今後、この素案を仕上げていくうえで、有効な意見収集ができたと考えられる。
- ・当面は、ビジョン素案と発表会の報告を合わせて、都市づくりNPOさいたまのホームページに掲載して公開するとともに、年度末に向けて、ビジョンの仕上げを行っていく予定である。